

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

T. M. DROZUMIN et al  
f. April 13, 2004  
Birch, Stewart et al  
703-205-8000  
2927-0172 PUS/  
1 of 2

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application: 2003年 4月16日

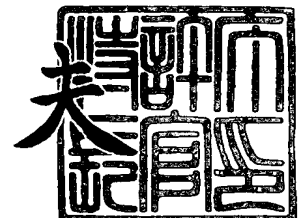
出願番号  
Application Number: 特願2003-111966  
[ST. 10/C]: [JP 2003-111966]

出願人  
Applicant(s): 住友ゴム工業株式会社  
諸角 建

2004年 1月29日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井 康



出証番号 出証特2004-3004153

【書類名】 特許願

【整理番号】 15006

【提出日】 平成15年 4月16日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A63B 69/00

【発明の名称】 ゴルフスウィングの自動追尾方法

【請求項の数】 4

【発明者】

【住所又は居所】 兵庫県神戸市中央区脇浜町 3 丁目 6 番 9 号 住友ゴム工業株式会社内

【氏名】 植田 勝彦

【発明者】

【住所又は居所】 兵庫県神戸市中央区脇浜町 3 丁目 6 番 9 号 住友ゴム工業株式会社内

【氏名】 大貫 正秀

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県津久井郡藤野町小淵 2 1 4 0 - 2

【氏名】 諸角 建

【特許出願人】

【識別番号】 000183233

【氏名又は名称】 住友ゴム工業株式会社

【特許出願人】

【住所又は居所】 神奈川県津久井郡藤野町小淵 2 1 4 0 - 2

【氏名又は名称】 諸角 建

【代理人】

【識別番号】 100072660

【弁理士】

【氏名又は名称】 大和田 和美

**【手数料の表示】****【予納台帳番号】** 045034**【納付金額】** 21,000円**【提出物件の目録】****【物件名】** 明細書 1**【物件名】** 図面 1**【物件名】** 要約書 1**【包括委任状番号】** 9814053

**【その他】** なお、図面の内、図 2 はカラー付であるから、図 2 の見本は物件提出書で、写真は上申書で別途に提出します。  
見本と写真との二者択一が審査、権利解釈その他において、必要であれば、見本を選択します。

**【プルーフの要否】** 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ゴルフスウィングの自動追尾方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 測定対象であるゴルファーがスウィングする前、ゴルファーのいずれか 1 ヶ所の部位およびゴルファーが使用するゴルフクラブの少なくとも 1 ヶ所の所要位置を含む複数位置に色付きのマークを取り付け、

ゴルファーが写らないスウィング場所の背景画像と、ゴルファーのスウィング時のアドレスからフィニッシュまでのスウィング動画像とを、カメラによってカラー画像で撮影し、

上記撮影した背景画像をコンピュータに記憶させると共に、上記スウィング動画像を複数の静止画像に変換してコンピュータに記憶させ、

上記静止画像のうち上記マークが全て見える特定の静止画像を基準画像とし、各マークの基準色情報と座標データ（位置情報）を予め手動あるいは自動で記憶させ、

上記静止画像の上記マーク位置毎に、該静止画像に時間的に隣接する静止画像上での予測されるマーク位置を含む領域である探索範囲と、該探索範囲内に上記マークが見えなくなった場合を想定して該探索範囲よりも大きい領域である待機範囲とを静止画像上に設定し、かつ、上記マークの基準色情報と同一色であるとみなすことのできる許容範囲である色範囲を設定し、

静止画像の上記探索範囲あるいは該探索範囲では上記マークが隠れて見えなくなった場合には上記探索範囲より待機範囲に変更して、

上記探索範囲あるいは待機範囲において、上記背景画像で差分処理した差分後画像上のピクセル色と上記基準色情報との差の絶対値が上記色範囲内で且つ差が最小であるピクセルを上記マークの位置とみなして座標データを取得し、

スウィング中に動く上記各マークを自動的に追尾することを特徴とするゴルフスウィングの自動追尾方法。

【請求項 2】 上記色付きのマークは、上記ゴルフクラブのシャフトの長さ方向に間隔をあけた少なくとも 2 箇所と、ゴルファーの頭・右肩・左肩・右肘・左肘・右手首・左手首・右腰・左腰・右膝・左膝・右足首・左足首・右足先・左

足先から選ばれる少なくとも 1 箇所以上に設けている請求項 1 のゴルフスウィングの自動追尾方法。

【請求項 3】 上記探索範囲あるいは上記待機範囲において、上記基準色情報と差の絶対値が上記色範囲内で且つ差が最小であるピクセルを上記マークの位置とみなして座標データを取得する際に、上記背景画像との差分処理を行うか否かをマーク位置毎に選択可能としている請求項 1 または請求項 2 に記載のゴルフスウィングの自動追尾方法。

【請求項 4】 上記複数のマークのうち、スウィング中に互いに近接あるいは重なるマークは異なる色に設定している請求項 1 乃至請求項 3 のいずれか 1 項に記載のゴルフスウィングの自動追尾方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ゴルフスウィングの自動追尾方法に関し、詳しくは、ゴルフクラブのシャフトあるいは／およびゴルファーの体に付された色付きのマークをカメラ撮影された画像上で自動追尾する方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、ゴルフスウィングを解析する装置として、図 6 に示すような動作診断装置が特許 2794018 号公報に開示されている。

上記動作診断装置は、被診断者 1 のスウィング動作を撮影する TV カメラ 2 と、TV カメラ 2 に接続された処理装置 3 と、診断結果を表示する CRT 4などを備えており、被診断者 1 には、反射テープが張られた動作ポイント P<sub>1</sub>～P<sub>6</sub>が設けられている。

処理装置 3 は、TV カメラ 2 からの画像データをデジタル信号に変換する手段と、その画像データから動作ポイント P<sub>1</sub>～P<sub>6</sub>の座標を抽出する手段と、各動作ポイント P<sub>1</sub>～P<sub>6</sub>の座標から動作の特徴を示す数値データに演算する手段と、比較基準の数値データと比較して評価する手段と、該評価値に従って診断する手段とを有している。

そして、画像データ上の各動作ポイント  $P_1 \sim P_6$  には、動作ポイント  $P_1 \sim P_6$  を囲む窓枠が設定され、窓枠ごとに動作ポイント  $P_1 \sim P_6$  を認識して個別に追跡するようにしている。

【0003】

また、特開 2001-614 号公報や特開平 9-154996 号公報に開示されたスウィング解析装置では、手首等に軸方向を測定できるセンサを取り付けて手首関節角度等を求めたりして、プレーヤーの動きを検出しスウィングを分析している。

【0004】

【特許文献 1】

特許 2794018 号公報

【0005】

【特許文献 2】

特開 2001-614 号公報

【0006】

【特許文献 3】

特開平 9-154996 号公報

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、特許 2794018 号公報に開示された動作診断装置によれば、動作ポイント  $P_1 \sim P_6$  以外の背景画像に動作ポイント  $P_1 \sim P_6$  と似た輝度や色の部位が存在した場合には、背景画像と動作ポイント  $P_1 \sim P_6$  とを誤認識する恐れがある。また、被診断者 1 が実際にスウィング動作を行うと、腕の動きにより肩や腰等に付された動作ポイント  $P_3$ 、 $P_4$ 、 $P_6$  が隠れてしまい、動作ポイント  $P_1 \sim P_6$  の追跡エラーが発生して測定精度が低下する問題がある。

【0008】

さらには、異なる動作ポイント  $P_1 \sim P_6$  が TV カメラ 2 から見て重なった場合にも、動作ポイント  $P_1 \sim P_6$  の追跡を失敗してしまう問題があると共に、動作ポイント  $P_1 \sim P_6$  が重ならなくても近接した場合には、上記した窓枠内に複数の動

作ポイント  $P_1 \sim P_6$  が検知され、動作ポイント  $P_1 \sim P_6$  を誤認識してしまう恐れもある。

#### 【0009】

また、特開 2001-614 号公報や特開平 9-154996 号公報では、センサを用いているために多数のポイントを測定することが困難となると共に、1箇所の動作を測定するとしても、被診断者の体にセンサを取り付けている影響で、被診断者の本来のスウィングとは異なるスウィングになる可能性がある。

#### 【0010】

本発明は、上記問題に鑑みてなされたもので、計測対象のポイントが腕等により隠された場合や異なるポイント同士が重なり又は近接した場合等の追跡エラーを低減すると共に、ポイントと背景画像との誤認を防止することを課題としている。

#### 【0011】

##### 【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するため、本発明は、測定対象であるゴルファーがスウィングする前、ゴルファーのいずれか 1 ヶ所の部位およびゴルファーが使用するゴルフクラブの少なくとも 1 ヶ所の所要位置を含む複数位置に色付きのマークを取り付け、

ゴルファーが写らないスウィング場所の背景画像と、ゴルファーのスウィング時のアドレスからフィニッシュまでのスウィング動画像とを、カメラによってカラー画像で撮影し、

上記撮影した背景画像をコンピュータに記憶させると共に、上記スウィング動画像を複数の静止画像に変換してコンピュータに記憶させ、

上記静止画像のうち上記マークが全て見える特定の静止画像を基準画像とし、各マークの基準色情報と座標データ（位置情報）を予め手動あるいは自動で記憶させ、

上記静止画像の上記マーク位置毎に、該静止画像に時間的に隣接する静止画像上での予測されるマーク位置を含む領域である探索範囲と、該探索範囲内に上記マークが見えなくなった場合を想定して該探索範囲よりも大きい領域である待機

範囲とを静止画像上に設定し、かつ、上記マークの基準色情報と同一色であるとみなすことのできる許容範囲である色範囲を設定し、

静止画像の上記探索範囲あるいは該探索範囲では上記マークが隠れて見えなくなった場合には上記探索範囲より待機範囲に変更して、

上記探索範囲あるいは待機範囲において、上記背景画像で差分処理した差分後画像上のピクセル色と上記基準色情報との差の絶対値が上記色範囲内で且つ差が最小であるピクセルを上記マークの位置とみなして座標データを取得し、

スウィング中に動く上記各マークを自動的に追尾することを特徴とするゴルフスウィングの自動追尾方法を提供している。

#### 【0012】

上記方法によると、上記マークの位置を検出するために上記基準色情報との差の絶対値が上記色範囲内であるか否かを判断する領域を全画面とせず、上記各マークの位置および上記マークが次の時刻で移動すると予測される位置を含む領域である探索範囲内および待機範囲内だけで判断しているので、上記マークと近似した色が静止画像中に含まれていても排除して誤認識を防止することができる。

また、上記静止画像の探索範囲内および待機範囲内のピクセルについて上記背景画像との差分処理を行って背景画像を排除することにより、探索範囲内および待機範囲内の背景画像中に上記マークの色と近似した色が存在しても排除して誤認識を防止することができる。

#### 【0013】

さらに、上記色範囲を設定することで同一色であると認識する色情報に幅をもたせているので、撮影されたマークの色がスウィング場所のライティングの影響等により微妙に変化する場合でも、当該マークの色であると確実に認識し、取得された色情報の誤差を許容することが可能となる。

また、通常は探索範囲を用いてマークを自動追尾しているが、マークがスウィングにより動かされた腕などで見えない場合には、上記探索範囲がより広い範囲である上記待機範囲に変更されるので、時間的に進めてマークが新たに見え始めた時に該範囲の外にマークが現れることが防止され、マークの再追尾を確実に行うことが可能となる。



## 【0014】

また、上記マークの取付箇所は、少なくとも上記ゴルフクラブに2点必要であるが、また、ゴルファーについては少なくとも1箇所、より好ましくは少なくとも2箇所にマークを付していることが好ましく、さらに、左肘および左手首にマークを付していることが好ましい。

なお、上記基準画像は、ゴルファーがアドレス姿勢である静止画像を用いると好ましいが、該アドレス画像にて全てのマークを見つけない場合には、全てのマークを認識できる静止画像まで時間的に動かし、当該画像を基準色情報および座標データを取得する基準画像としており、このように、1枚目の静止画像を基準画像とできなかった場合には、上記追尾処理は時間的に進めて行うだけでなく、時間的に逆方向にも戻して行うこととする。

## 【0015】

上記色付きのマークは、上記ゴルフクラブのシャフトの長さ方向に間隔をあけた少なくとも2箇所と、ゴルファーの頭・右肩・左肩・右肘・左肘・右手首・左手首・右腰・左腰・右膝・左膝・右足首・左足首・右足先・左足先から選ばれる少なくとも1箇所以上、より好ましくは2箇所以上に設けているとよい。

さらには、下半身の動きを見る場合は、両膝・両足首・両足先に設けているとさらに好ましい。

即ち、ゴルファーの体の関節部分にマークを設けていることで、ゴルファーのスウィング解析をより高精度に行うことができる。

## 【0016】

上記探索範囲あるいは上記待機範囲において、上記基準色情報との差の絶対値が上記色範囲内で且つ差が最小であるピクセルを上記マークの位置とみなして座標データを取得する際に、上記背景画像との差分処理を行うか否かをマーク位置毎に選択可能としている。

## 【0017】

上記のようにすると、例えば、探索範囲（あるいは待機範囲）内にマークの色と近似する色の背景画像が現れる可能性のある探索範囲（あるいは待機範囲）についてのみ背景画像との差分処理を行う一方、マークの色と近似した色の背景画

像が現れる可能性の低い探索範囲については差分処理を行わないことにより、マークの認識率を低下させることなく計算速度を高めることができる。

#### 【0018】

上記複数のマークのうち、スウィング中に互いに近接あるいは重なるマークは異なる色に設定していると好適である。

#### 【0019】

即ち、近接あるいは重なる可能性のあるマーク同士を異なる色にすることで、1つの探索範囲内に上記各マークが入ってしまった場合でも、互いのマークを誤認識するのを防止することができる。

#### 【0020】

##### 【発明の実施の形態】

本発明の実施形態を図面を参照して説明する。

図1は実施形態のゴルフスイング自動追尾システムの概略図を示し、情報処理機器となるコンピュータ14と、該コンピュータ14に接続された表示手段であるモニター16と、コンピュータ14に接続された入力手段であるマウス17およびキーボード18と、コンピュータ14に接続されゴルファー15の正面位置に設置されたカラーCCDカメラ13とを備え、被診断者となるゴルファー15には17つのマークM1～8、M11～17が所要箇所に取り付けられていると共に、クラブ11のシャフト11aには間隔をあけて2つのマークM9、M10が取り付けられている。

#### 【0021】

マークM1～M17としては、反射テープやLED（発光ダイオードの発光源）等を利用してもよいが、今回は半球状の発泡スチロールを着色したものを接着することで光の反射による色の変化を低減しており、各マークM1～M17の色の設定方法は、近接するマークやスウィング中に重なる可能性があるマークは同色にせず色を異ならせている。例えば、頭のマークM1と左手首のマークM6、シャフト1のマークM9とシャフト2のマークM10、シャフト1のマークM9およびシャフト2のマークM10と両腰のマークM7、M8などである。

シャフト1とシャフト2のマークM9、M10は、クラブ11のグリップエン

ド寄りの位置に間隔をあけて取り付けられている。グリップエンド寄りの方がヘッド寄りよりも移動速度が遅く追跡し易いからである。

#### 【0 0 2 2】

具体的には、マークM 1～M 1 7の色は、頭のマークM 1を青、右肩のマークM 2を黄緑、左肩のマークM 3をオレンジ、右肘のマークM 4を黄、左肘のマークM 5をピンク、左手首のマークM 6を赤、右腰のマークM 7を白、左腰のマークM 8を黄緑、グリップエンド側のシャフト1のマークM 9をピンク、ヘッド側のシャフト2のマークM 1 0を白、首のマークM 1 1を紫、右膝のマークM 1 2をオレンジ、左膝のマークM 1 3を赤、右足首のマークM 1 4を赤、左足首のマークM 1 5を白、右足先のマークM 1 6を青、左足先のマークM 1 7をオレンジとしている。

#### 【0 0 2 3】

カラーCCDカメラ1 3は、アナログCCDカメラを用いる場合には1秒間あたりコマ数が3 0コマ以上で、好ましくは6 0コマ以上とし、高速度デジタルCCDカメラを用いる場合には、1秒間あたりのコマ数が6 0コマ以上で、好ましくは1 2 0コマ以上、汎用のデジタルCCDビデオカメラでは、1秒間あたりのコマ数が3 0とし、シャッタースピードは1 / 5 0 0 s、好ましくは1 / 1 0 0 0 s以下とする。

#### 【0 0 2 4】

スウィングを撮影する空間（縦3×横3×高さ2 m）の明るさは、アナログCCDカメラ使用時は1 0 0 0ルクス以上、高速度デジタルCCDカメラ使用時は1 5 0 0ルクス以上の明るさが必要である。また、1 0 0 0あるいは2 0 0 0ルクス以上であっても、極端に明るい箇所が生じるとハレーションが生じる可能性があるので、アナログCCDカメラ使用時は1 0 0 0～1 5 0 0ルクスの範囲、デジタルCCDカメラでは1 5 0 0～2 5 0 0ルクスの範囲内で均一の明るさをスウィング環境として設定することが好ましい。

#### 【0 0 2 5】

カラーCCDカメラ1 3でスウィングを撮影する時間は、アドレスからフォロースルーまでの3秒程度であることが好ましい。しかし、アドレスからインパク

トまでについて診断するのであれば、2秒程度でも構わない。

スウィングを撮影する空間の背景12は、後述する背景差分によってゴルファー15の肌色やマークM1～M17等を抽出しやすいように、極力、異なる色とすることが好ましい。

#### 【0026】

コンピュータ14は、カラーCCDカメラ13とLANケーブルやIEEE1394やI-link等を用いてオンライン接続されており、カラーCCDカメラ13で撮影された画像をコンピュータ14のハードディスクに保存している。

なお、DVテープを利用して、後で再生しながらコンピュータに取り込む等して、オフラインで画像を取り込んでも構わない。

画像の保存形式は、画像の質を考慮するとBMP形式が好ましいが、JPEGやTIFF等のその他ファイル形式でも良い。

#### 【0027】

次に、カラーCCDカメラ13でコンピュータ14に取り込んだスウィング画像から各マークM1～M17の座標を追跡する手順について図5のフローチャートを用いて説明する。

まず、カラーCCDカメラ13でゴルファー15が存在しない状態の背景12のみを撮影した背景画像を読み込み（ステップ100）、また、カラーCCDカメラ13からスウィング動画像をコンピュータ14に取り込んで各コマ毎に静止画像に変換してハードディスクに保存する。ゴルファー15のアドレスからフィニッシュ（またはインパクト）までのスウィングの各静止画像をメモリに読み込む（ステップ101）。

#### 【0028】

次いで、時系列的に1枚目の画像を基準画像として、図2に示すように、ゴルファー15およびシャフト11aに取り付けられた全マークM1～M17をマウス17を用いてクリックすることにより認識させる（ステップ102）。これにより、全マークM1～M17の基準色情報と座標データが取得される。（ここで、基準色情報とは、上記基準画像上でのマークM1～M17の色情報であるR（赤）G（緑）B（青）のことをいい、色が24ビットで表現される場合は各色は

0～255までの値となる。)

#### 【0029】

この際、マークM1～M17の中に腕等で隠されて認識できないマークが存在する場合には、全マークM1～M17の認識ができるまで時間的に画像のコマを進めて(ステップ103)、特定の画像での全マークM1～M17の基準色情報と座標データを取得する。

なお、マウス17を用いて手動で全マークM1～M17を認識させる代わりに、予め全マークM1～M17について色情報を入力しておき、自動で座標データを認識するようにしてもよい。

#### 【0030】

そして、マークM1～M17に、各マークM1～M17を中心として四角形の探索範囲S1～S17を設定すると共に、マークM1～M17が隠れた場合に探索範囲S1～S17の代わりに用い、探索範囲S1～S17より大きい範囲である待機範囲を設定する(ステップ104)。(なお、図2では隠れたマークM1～M17が存在しないため探索範囲S1～S17しか見られないが、上記待機範囲は、探索範囲S1～S17と同様に、個々のマークM1～M17に対して割り当てられるもので、それらの符号と対応して17つの待機範囲W1～W17が用意されている。)

ここで、探索範囲S1～S17とは、マークM1～M17の検出処理を行う計算対象となる画像上の範囲のことを言う。探索範囲S1～S17の概念を導入すれば、図3に示すように、ゴルファー15の右腰に付された白色のマークM7とゴルファー15が着ている白シャツ15aとの色が近似している場合であっても、マークM7の検出処理には探索範囲S7内しか行わないため、白シャツをマークM7と誤認識してしまうのを防止することが可能となる。

#### 【0031】

本実施形態では、マークM1～M17を中心としてデフォルトで縦横(XY)範囲を10×10ピクセルとしており、該デフォルト値を基準として、CCDカメラ13の撮影フレーム数が120コマ/sである場合、上半身等の様に良く動くマークについては探索範囲を最大で3倍までに大きくする一方、下半身等のマ

ークはスウィング中にほとんど動かないので、探索範囲を最小で0.5倍までに小さくするカスタマイズを行う。この際、シャフト2のマークM10等のように横方向への移動が大きいものには、探索範囲S10を正方形とせずに横長の長方形とすれば、探索範囲S10の面積を大きくせずに追跡確率を高めることができる。

#### 【0032】

一方、上述の待機範囲とは、マークM1～M17が腕等で隠れた場合に探索範囲S1～S17の代わりに用いるもので、夫々のマークM1～M17毎に設定され、対応するマークM1～M17の探索範囲S1～S17よりも大きく設定されている。本実施形態では、待機範囲の大きさはデフォルトで縦横(XY)範囲を15×15ピクセルとしており、探索範囲S1～S17に対する待機範囲の倍率を1.5～10倍の範囲で、よく動くマークM1～M17については上記倍率を大きくし、あまり動かないマークM1～M17については上記倍率を小さくするカスタマイズを行う。

#### 【0033】

次いで、色範囲を設定する(ステップ105)。

色範囲とは、マークM1～M17を認識する際に、画像上の対象箇所の色情報が上記マークの基準色情報と同一であるとみなす誤差の許容範囲をいい、本実施形態では、上記色範囲をR(赤)G(緑)B(青)のそれぞれについてデフォルトで±40に設定している。そして、R(赤)G(緑)B(青)それぞれについて対象箇所の色情報の値r、g、bと基準色情報の値r'、g'、b'とを個々に比較して±40以内の誤差内であれば同一色、つまり、当該対象箇所をマークM1～M17とみなす。なお、色範囲についても、上記デフォルト値から夫々増減させてカスタマイズすることができる。

#### 【0034】

マークM1～M17の検知方法として、上記の判定方法の他、対象箇所での色情報r、g、bと基準色情報r'、g'、b'との差の絶対値の和である

$$|r - r'| + |g - g'| + |b - b'|$$

が、予め設定したしきい値(ex. 30)以下であればマークM1～M17で、

しきい値以上であればマークM1～M17でないと判定してもよい。

あるいは、ノルム（対象箇所での色情報  $r$ 、 $g$ 、 $b$  と基準色情報  $r'$ 、 $g'$ 、 $b'$  との差の絶対値の 2 乗和の平方根）

$$\sqrt{(r-r')^2 + (g-g')^2 + (b-b')^2}$$

によってマークM1～M17であるか否かを判定してもよい。

#### 【0035】

上記条件設定のもとで、探索範囲S1～S17内で背景画像との差分処理を行う（ステップ106）。これにより、探索範囲S1～S17内で背景画像が取り除かれ、後工程での各マークM1～M17の認識の際に、背景画像にマークM1～M17と近似した色が存在しても誤認しなくなるメリットがある。

ここで、背景差分処理とは、ゴルファー15を撮影した画像RGB値から背景12画像を走査しながら各ピクセル位置毎に差分し、RGBの差がしきい値（例えば、30）以上であればゴルファー15画像として認識している。

なお、背景差分処理を行う探索範囲S1～S17は選択可能であり、全ての探索範囲S1～S17について実施してもよいし、背景画像12との誤認識をする可能性の低いものについては背景差分処理を行わなくてもよい。

#### 【0036】

次いで、探索範囲S1～S17内の差分後のピクセル色情報と、マークの基準色情報との差の絶対値が、上記設定した色範囲内であるか否かを判定する（ステップ107）。

そして、色範囲内であるピクセルが1つしかなければ、探索範囲S1～S17内の該当箇所をマークM1～M17であると認定し、複数あれば、上記差の絶対値が最小である箇所をマークM1～M17であると認定し、その認定されたマークM1～M17の座標データを取得する（ステップ108）。

#### 【0037】

また、色範囲内ではないと判定された場合には、探索範囲S1～S17内のマークM1～M17が腕等で隠されて存在しなくなったと考えられるので、スウィング画像を時間的に進めてマークM1～M17が表れるのに備えて探索範囲S1～S17よりも大きい領域である待機範囲に変更する（ステップ109）。

詳しくは、図 4 (A) に示すように、マーク M 7 が見えておりゴルファー 15 の腕 15 b でまだ隠されていない場合には、探索範囲 S 7 が設定されており、時間的に進んだ画像になると、図 4 (B) に示すように、腕 15 b でマーク M 7 が隠されて認識できなくなる。この時に、更に時間的に進んだ画像でマーク M 7 が表れた際に範囲内にキャッチできるように、探索範囲 S 7 から範囲の大きな待機範囲 W 7 へと変更する。そして、時間的に進んで、図 4 (C) に示すように、腕 15 b で隠されていたマーク M 7 が表れて認識可能となると、待機範囲 W 7 から探索範囲 S 7 へと戻される。

#### 【0038】

そして、上記手順が全スウィング画像について終了してなければ（ステップ 110）、画像を時間的に進めて（ステップ 111）、上記同様の手順を繰り返す。

なお、上記ステップ 102 で全マーク M 1 ～M 17 の基準色情報と座標データを取得した画像が時間的に 1 枚目の画像でなかった場合は、時間的に逆方向にも戻して上記手順がなされる。結果的に、全スウィング画像について終了することで、アドレスからフィニッシュまでのスウィング動作における全マーク M 1 ～M 17 の座標データが取得される。

#### 【0039】

（実施例）

次に、上記実施形態について具体例を挙げて説明する。

#### 【0040】



【表 1】

	マーク		初期設定										比較例①		比較例②		実施例	
			探索範囲			待機範囲			色範囲				背景差分 処理	自動追尾 認識率%	背景差分 処理	自動追尾 認識率%		
			X	Y		X	Y		R	G	B							
1	頭	青	10	10		15	15		40	40		40	無	100	有	100	無	100
2	右肩	黄緑	10	10		15	15		40	40		40	無	92.1	有	92.1	無	92.1
3	左肩	オレンジ	10	10		15	15		40	40		40	無	94.2	有	94.2	無	94.2
4	右肘	黄	15	15		40	40		40	40		40	無	97.2	有	97.2	無	97.2
5	左肘	ピンク	10	10		15	15		40	40		40	無	98.6	有	98.6	無	98.6
6	左手首	赤	15	15		40	40		40	40		40	無	98.2	有	98.2	無	98.2
7	右腰	白	10	10		15	15		40	40		40	無	100	有	100	無	100
8	左腰	黄緑	10	10		15	15		40	40		40	無	97.3	有	97.3	無	97.3
9	シャフト1	ピンク	30	30		40	25		40	40		40	無	30.2	有	72.1	有	72.1
10	シャフト2	白	30	30		40	25		40	40		40	無	40.3	有	74.3	有	74.3
11	首	紫	15	10		20	15		40	40		40	無	92.1	有	92.1	無	92.1
12	右膝	オレンジ	7	7		10	10		40	40		40	無	100	有	100	無	100
13	左膝	赤	7	7		10	10		40	40		40	無	100	有	100	無	100
14	右足首	赤	7	7		10	10		40	40		40	無	100	有	100	無	100
15	左足首	白	7	7		10	10		40	40		40	無	100	有	100	無	100
16	右足先	青	7	7		10	10		40	40		40	無	100	有	100	無	100
17	左足先	オレンジ	7	7		10	10		40	40		40	無	100	有	100	無	100
自動追尾処理時間												15秒		80秒		17秒		

【0041】

マークM1～M17の位置および色は、表1に示すように設定し、スウィング中に近接あるいは重なる恐れのあるマークは同色にしないように設定した。シャフト1のマークM9はグリップエンドから200mm、シャフト2のマークM10はグリップエンドから400mmの位置に取り付けた。

探索範囲は縦横(XY)範囲として10×10ピクセルをデフォルト値とする一方、右肘・左手首は動きが速いので15×15ピクセルとし、首はマークM11の移動方向を考慮して探索範囲の形が正方形ではなく長方形となる15×10ピクセルとし、シャフト1・シャフト2はマークM9、M10の移動量が大いので30×30ピクセルとしている。

#### 【0042】

待機範囲は縦横(XY)範囲として15×15ピクセルをデフォルト値とする一方、右肘・左手首は動きが大いので40×40ピクセルとし、首はマークM11の移動方向を考慮して待機範囲W11の形が正方形ではなく長方形となる20×15ピクセルとした。シャフト1・シャフト2のマークM9、M10は移動量が大いので40×25ピクセルとしている。

膝から下の下半身のマークM12～M17はスウィング中にほとんど動かないので、探索範囲および待機範囲をデフォルト値よりも小さくして、それぞれ7×7ピクセルおよび10×10ピクセルとして計算時間の短縮を行うようにした。

色範囲は(R) (G) (B)のそれぞれについて±40とした。

#### 【0043】

背景12の色は、背景画像を差分処理する際にゴルファー15の肌色やマークM1～M17の色等を抽出しやすいように、白青色、若しくは白緑色が好ましい。しかし、ゴルファー15の着ている服によっては他の色を背景12の色としてもよい。

カラーCCDカメラ13の撮影条件は、シャッタースピードを1/500s、撮影コマ数は125コマ/s、撮影空間の明るさは、テイク・ダウンスウィング領域で2000ルクス以上、フォロー領域で1000ルクス以上とする。

スウィング撮影時間は約3秒間として、アドレスからフィニッシュまでスウィングを撮影した。コンピュータ14は、CPU:ペンティアム(R)III1.2

G H z、メモリ 2 5 6 M B のパーソナルコンピュータであり、静止画像の保存形式は B M P 形式とした。

【 0 0 4 4 】

そして、探索範囲および待機範囲のうち、背景色との混同を起こし易いと予測されるシャフト 1 およびシャフト 2 についてのみ、背景画像との差分処理を行う一方、他の位置の探索範囲および待機範囲については背景画像との差分処理を行っていない。

【 0 0 4 5 】

(比較例 1)

比較例 1 では、全ての探索範囲および待機範囲について背景画像との差分処理を行わずに自動追尾を行った。なお、他の条件は実施例と同様である。

【 0 0 4 6 】

(比較例 2)

比較例 2 では、全ての探索範囲および待機範囲について背景画像との差分処理を行った。なお、他の条件は実施例と同様である。

【 0 0 4 7 】

(評価)

比較例 1 では、シャフト 1 およびシャフト 2 の 2 箇所背景 1 2 の色を誤って追尾してしまったために自動追尾認識率が低くなっているが、実施例では、シャフト 1 およびシャフト 2 の 2 箇所背景差分処理を実施することによって、背景の色を追尾することが無くなり、自動追尾認識率が向上している。

なお、自動追尾認識率とは、探索範囲において追尾した計算上のマーク位置と実際のマーク M 1 ～ M 1 7 とが一致したコマ数と待機範囲のコマ数とを足した数値を全コマ数で割った値を百分率で表したものであり、5 0 名のテスターにて当該百分率の値を求め、その 5 0 名のテスターにおける当該百分率の値を平均し、それを各例の自動追尾認識率として表示している。

【 0 0 4 8 】

また、比較例 2 では、自動追尾処理時間に 8 0 秒を要しているのに対し、実施例では、1 7 秒しか要しておらず、自動追尾認識率が高いままであるにも関わら

ず、全てのマークM1～M17に背景差分処理を行う比較例2に比べて大幅に計算時間が短縮化されている。

#### 【0049】

##### 【発明の効果】

以上の説明より明らかなように、本発明によれば、上記マークの位置を検出するための判断領域を全画面とせず、上記各マークの位置および上記マークが次の時刻で移動すると予測される位置を含む領域である探索範囲内だけで判断しているので、上記マークと近似した色が静止画像中に含まれていても排除して誤認識を防止できる。また、上記静止画像の探索範囲内のピクセルについて背景画像との差分処理を行って背景画像を排除することで、探索範囲内の背景画像中にマークの色と近似する色が存在しても排除して誤認識を防止できる。さらに、上記色範囲を設定してマークと同一色であると認識する色情報に幅をもたせているので、マークの色がスウィング場所のライティングの影響等により微妙に変化した場合でも、当該マークの色であると確実に認識することができる。

#### 【0050】

また、マークが腕等に隠されて見えない場合に上記探索範囲より広い範囲である待機範囲に変更することにより、時間的に進めてマークが新たに見え始めた時に該範囲の外にマークが現れることが防止され、マークの再追尾を確実に行うことができる。

さらに、探索範囲あるいは待機範囲内で上記背景画像との差分処理を行うか否かを選択可能とすることで、例えば、探索範囲あるいは待機範囲内にマークの色と近似する色の背景画像が現れる可能性のあるものについてのみ背景画像との差分処理を行うことで、マークの認識率を低下させることなく計算速度を高めることができる。

また、近接あるいは重なる可能性のあるマーク同士を異なる色にすることで、1つの探索範囲内に上記各マークが入ってしまった場合でも、互いのマークの誤認識を防止できる。

##### 【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施形態の装置の構成図である。

【図 2】 マークおよび探索範囲が設定された基準画像を示す図面である。

【図 3】 マークおよび探索範囲を示す要部拡大図である。

【図 4】 (A) ~ (C) は探索範囲から待機範囲への変更を説明する要部拡大図である。

【図 5】 処理手順を示すフローチャートである。

【図 6】 従来例の装置の構成図である。

【符号の説明】

1 1 ゴルフクラブ

1 1 a シャフト

1 2 背景

1 3 カラー CCD カメラ

1 4 コンピュータ

1 5 ゴルファー

M 1 ~ M 1 7 マーク

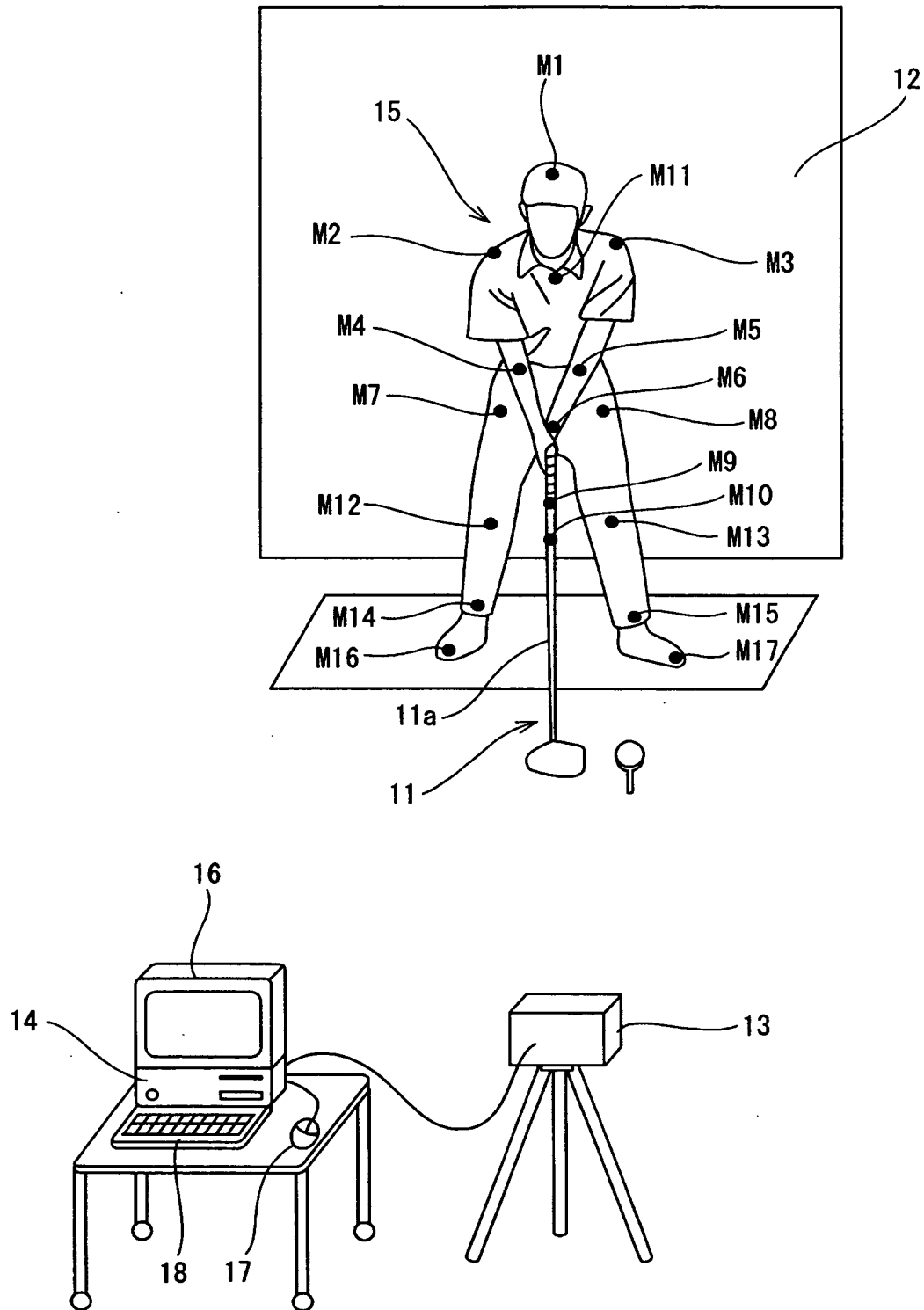
S 1 ~ S 1 7 探索範囲

W 1 ~ W 1 7 待機範囲

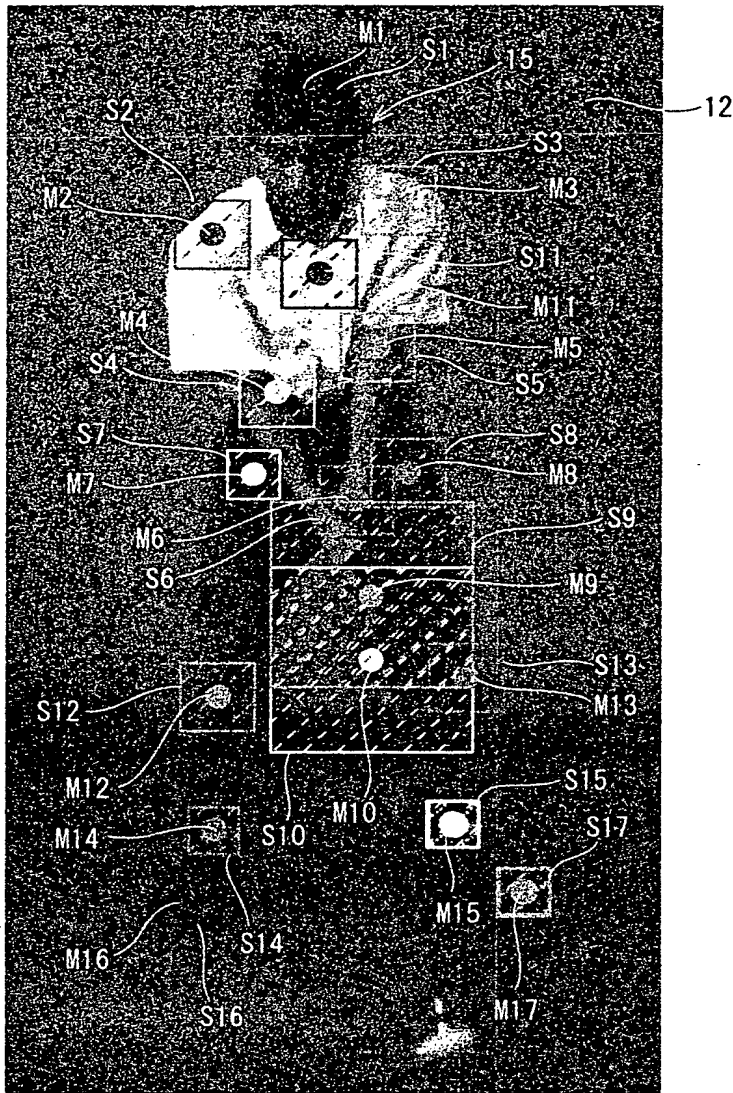
【書類名】

図面

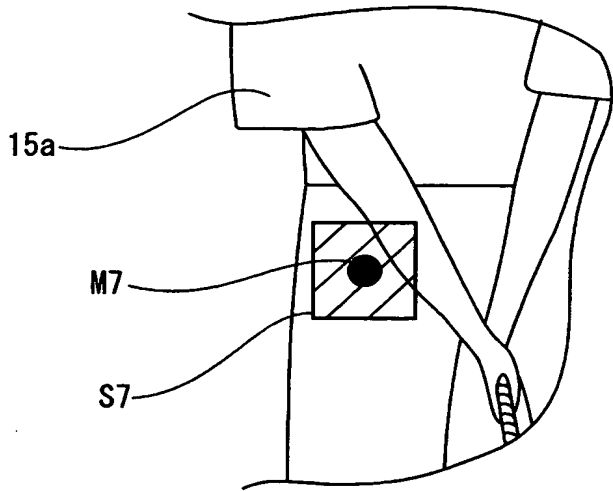
【図 1】



【図 2】



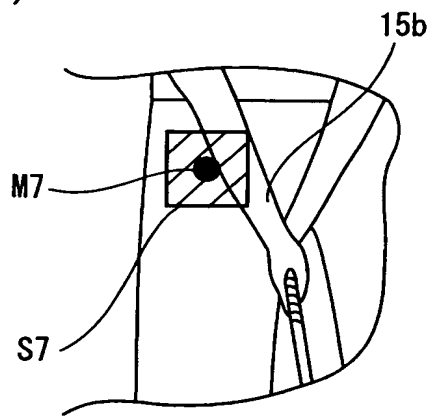
【図 3】



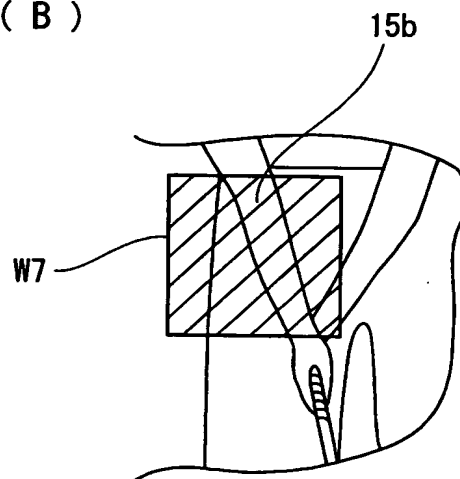


【図 4】

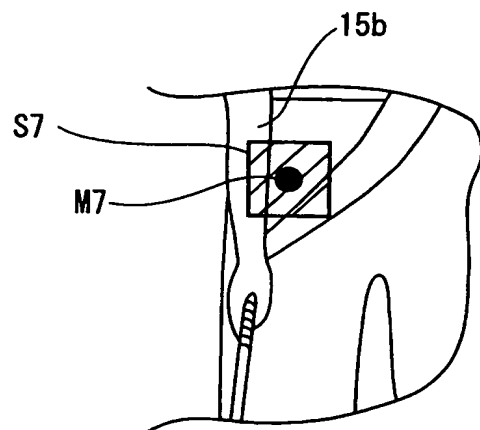
( A )



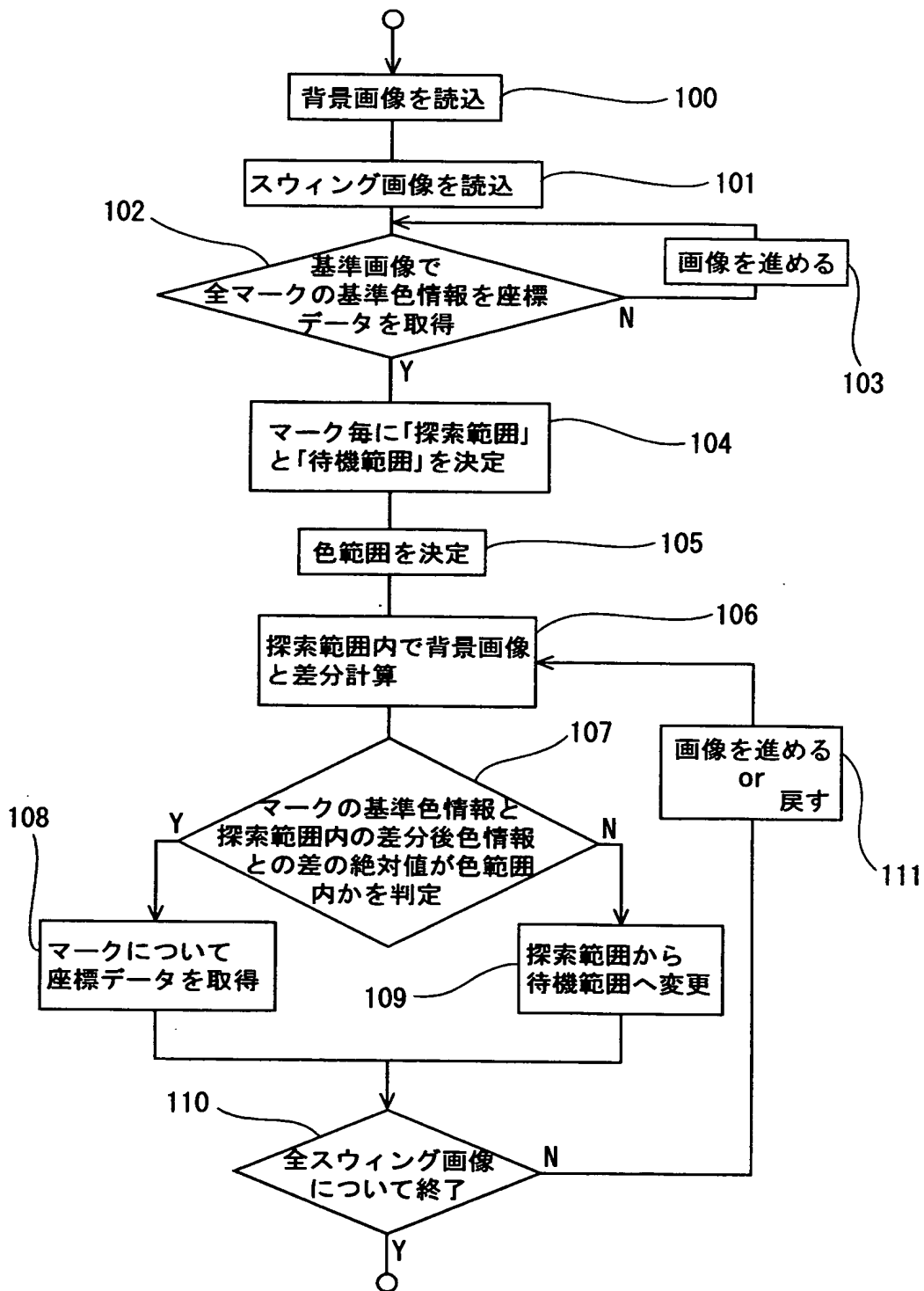
( B )



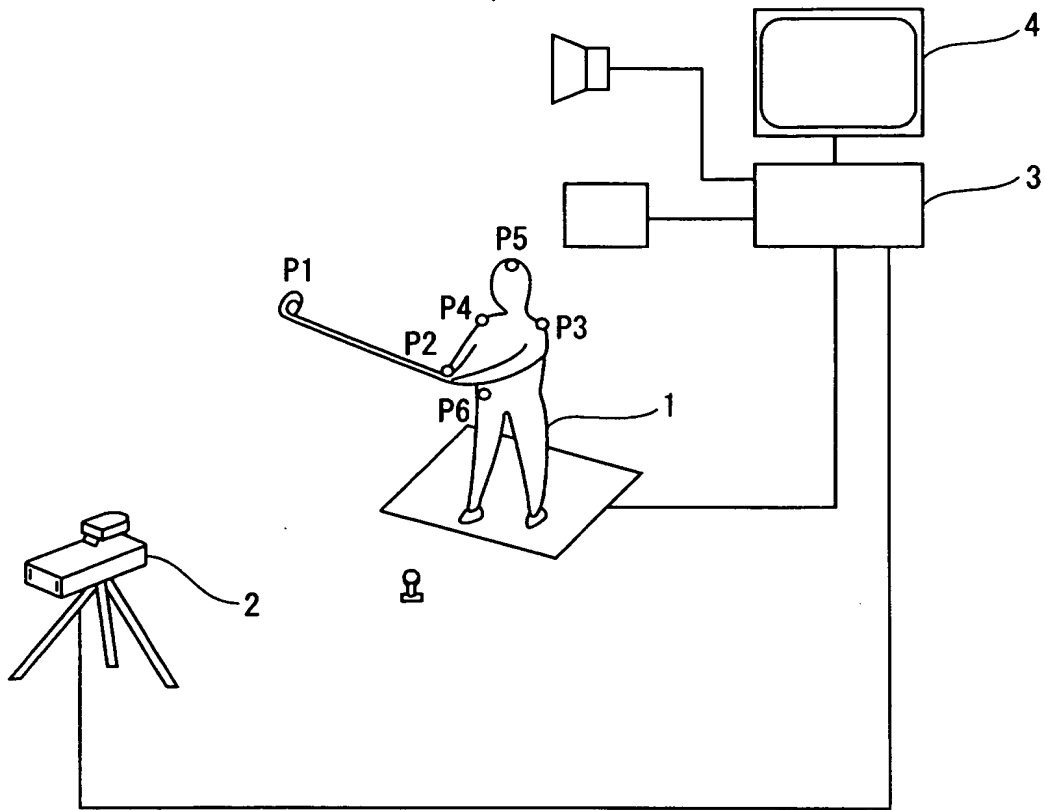
( C )



【図 5】



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ゴルファーやシャフトに付されたマークの追跡エラーを低減する

。

【解決手段】 ゴルファー 15 やクラブシャフト 11a に色付きのマーク M1～M17 を取り付け、撮影したスウィング画像のうち特定の画像を基準画像としてマーク M1～M17 の基準色情報と座標データを予め記憶し、静止画像でのマーク M1～M17 の位置と、その静止画像に時間的に隣接する静止画像での予測されるマーク位置とを含む領域である探索範囲 S1～S17 を静止画像上に設定すると共に、マーク M1～M17 の基準色情報と同一色であると許容される範囲である色範囲を設定し、探索範囲 S1～S17 において背景画像で差分処理した差分後画像と基準色情報との差の絶対値の差が色範囲内であり、かつ、差が最小であるピクセルをマーク M1～M17 の位置とみなして座標データを取得し、スウィング中に動くマーク M1～M17 を自動的に追尾する。

【選択図】 図 2

特願 2 0 0 3 - 1 1 1 9 6 6

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 1 8 3 2 3 3 ]

1 . 変更年月日 1 9 9 4 年 8 月 1 7 日

[変更理由] 住所変更

住 所 兵庫県神戸市中央区脇浜町 3 丁目 6 番 9 号

氏 名 住友ゴム工業株式会社

特願 2 0 0 3 - 1 1 1 9 6 6

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 5 0 3 1 4 1 4 6 6 ]

1. 変更年月日 2 0 0 3 年 4 月 1 6 日

[変更理由] 新規登録

住 所 神奈川県津久井郡藤野町小渕 2 1 4 0 - 2

氏 名 諸 角 建